

令和5年度第5回江東区外部評価委員会

1 日 時 令和5年8月8日(火)
午後6時30分 開会 午後7時30分 閉会

2 場 所 文化センター5階 第6会議室

3 出席者

(1) 委 員

吉 武 博 通
竹之内 一 幸
中 山 由 紀
今 村 保 雄
河 野 博 子

(2) 事務局

区長	木 村 弥 生
副区長	大 塚 善 彦
副区長	武 越 信 昭
政策経営部長	長 尾 潔
政策経営部 企画課長	大 塚 尚 史
政策経営部 財政課長	保 谷 俊 幸
政策経営部 計画推進担当課長	高 須 英 輔

4 傍聴者数 1名

5 会議次第

1. 開会

2. 議題

令和5年度外部評価結果報告書(案)について

3. その他

4. 閉会

6 配付資料

- ・次第
- ・配席図
- ・令和5年度外部評価結果報告書（案）

午後6時30分 開会

○吉武委員長 本日は河上委員が所用で御欠席という御連絡をいただきました。また傍聴につきましては1名の方がオンラインで傍聴いただいているということでございます。既にオンラインに入っていらっしゃるということでございます。また区長に御出席いただきました。感謝申し上げたいと思います。

初めにお手元の資料の確認をお願いします。事務局より事前送付されております会議次第に配付資料の記載がございます。お手元にそろっているか、御確認ください。

また繰り返しになりますが、木村区長、大変お忙しい中、わざわざ御出席いただきましたことを心から感謝申し上げたいと思います。早速ですが、御挨拶を賜ればと思いますが、よろしく願いいたします。

○木村区長 どうも皆様、いつもありがとうございます。江東区長の木村弥生でございます。

外部評価委員の皆様におかれましては、令和3年度の外部評価委員会により、3年間にわたり、江東区長期計画における施策の行政評価につきまして区民の視点に立って評価及び有識者の専門的知見からの御意見など、本区の行政評価システムの実施に御尽力をくださいましたことをまず御礼申し上げます。ありがとうございます。

この3年間には、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響や国際情勢の不安からの物価高騰など、区政を取り巻く環境が目まぐるしく変化をしていく中で、着実な行政サービスの実施を行っていくため、行政評価システムを活用したPDCAサイクルの取組に努めてまいりました。外部評価委員の皆様にご評価いただいた施策は実に30施策に及び、その中で見直しを図った事務事業は67事業となります。今年度の外部評価につきましても施策の見直し等の参考とさせていただきます、必要な予算措置等を行ってまいります。

さて、委員の皆様におかれまして、御存じのとおり、区では令和7年度からの長期計画の後期の開始に向けて見直しの作業に着手しているところです。外部委員の皆様には、これまでの区に対する評価を総括いただき、長期計画後期の策定に向けて御意見を頂戴する機会がございますので、後期の長期計画がもっと良くなるよう、御協力を賜ればと存じます。

以上、簡単ではございますが、私からの挨拶と代えさせていただきます。いつも本当にありがとうございます。

○委員長 木村区長、どうもありがとうございました。

区長が御退席される前に一言だけ、私たちのほうから御礼を申し上げたいと思います。この外部評価委員会は、もちろん私たちが中心でやるんですけども、実際には区の職員の皆さんたちが、まず事務局である政策経営部の皆さん、本当によくしっかりやっておられますし、それから実際、資料ではなかなか分かりませんが、毎回のやり取りで、各部の部長・課長が真摯に答えていただいて、そして特に区民のことを第一に考えておられることが我々にひしひしと伝わってきております。我々6人、私は長くやらせていただいておりますけども、外部評価するというよりも、むしろ江東区の応援団のつもりで応援しておりますので、また、これからいろいろ御多忙とは思いますが、ぜひ、お体に気をつけて御活躍いただければと思います。

本当はすぐに御退席されるかと思っておりますけども、せっかくの機会ですので、私から6人を代表して御礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

○区長 大変ありがたいお言葉を頂戴しました。職員みんなの励みにもなるかと思っております。どうぞ今後とも御指導をよろしくお願いします。ありがとうございます。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは木村区長は御公務のため、ここで御退席と伺っております。

どうもありがとうございました。

○区長 失礼いたします。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

(木村区長退席)

○委員長 それでは令和5年度外部評価結果報告書案につきましてということで議題にしたいと思っております。

この外部評価結果報告書案ですが、第1回の委員会で各委員に御了承いただきました外部評価委員会の運営についてにおいて、正副委員長で評価案を作成の上、各委員に提示するとされておりますことから、委員の皆様方から御提出いただきました外部評価シートに基づき、委員長の私と竹之内副委員長とで調整の上、取りまとめた。実際には本当に事務局がよくまとめていただいて、委員長、副委員長、特に我々のほうからコメントすることはあまりなかったことを申し上げたいと思います。

報告書案につきましては、既に皆様にも御覧いただいているところでございますけれども、改めてポイントにつきまして事務局から御説明いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○事務局 事務局の企画課長の大家でございます。それでは説明に入ります前に、今期最後の委員会でございますので、本区の副区長も出席させていただいておりますので、御紹介させていただきたいと思っております。

まず副区長の大家でございます。

○大塚副区長 大家です。よろしくお願ひいたします。いろいろありがとうございます。

○事務局 続きまして、同じく副区長の武越でございます。

○武越副区長 武越です。よろしくお願ひいたします。

○事務局 どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、外部評価結果の報告書案について御説明させていただきます。

まず表紙をおめぐりいただきますと、「令和5年度外部評価について」ということで、吉武委員長の文章を掲載しておりますが、この部分については主に委員長にお書きいただいております。

主な点について申し上げますと、3段落目にありますように、評価を通じて施策の実効性を高めていくためには、外部評価委員、外部評価モニター、関係機関、この3者が、それぞれの役割を果たしながら施策の目的・成果等を多面的に分析し、確認することが大切であること。また5段落目には、外部評価を含む行政評価は「誰のため」に「何を」行うべきかを区民に分かりやすく説明し、長期計画の着実な推進、確実な区政運営の実現を図ることを目的としていること。そして最後の段落で、今後とも行政評価制度を適切に機能させ、限られた財源を有効に活用しつつ、行政課題に的確かつ迅速に対応してほしいとまとめていただいております。

次に1ページの「1.外部評価委員会について」です。2ページ以降で外部委員会の概要についてまとめております。こちらは第1回の委員会でお示しした資料などを基に作成しておりますので、後ほど確認いただければと思います。

次に7ページをお開きください。7ページから「総評」となっておりますが、この部分についても主に吉武委員長にお書きいただいております。

8ページですが、「(1) 施策別評価の総括」、それから9ページの「(2) 計画推進に向けた課題」、それから10ページにあります「(3) 実効性のある区政運営に向けて」と大きく、この3点についてまとめていただいております。

それでは8ページにお戻りいただきまして、「(1) 施策別評価の総括」です。1段落目にありますように、S、A、B、Cの評定だけで計画の実施状況を評価することは難し

いが、あえて評定のみを整理すると次のとおりとなるとして、全てA評価以上となっているもの、B以下が過半となったもの、A以上が過半を占めているものの3つに区分して分析していただいております。また各委員の評価の理由で特に多かった意見から、「施策目標に対する指標設定の妥当性」「区民への分かりやすい積極的な情報発信」「ICTやDXを活用した広報手段の見直し」の3つに整理していただいております。さらに外部評価モニターの御意見・御質問には施策に対する区民の期待や区の実行への期待度など、重要な気づきを与えるものが含まれ、委員の評価の際に参考とさせていただいており、外部評価モニターへの謝意が示されております。

次に9ページの「(2) 計画推進に向けた課題」についてです。まず「①目指す姿と整合性のとれた指標設定の検討」では、計画行政を推進していく上で、取り扱う範囲が広く、背景となる問題も複雑に入り組んでいる問題については指標の設定が難しい点は理解できるが、精緻な状況把握と、それに対しての課題設定をどう構造化していくか。そして、どう筋道立てた戦略を構築するかが極めて重要であり、施策の検討と実施に当たり、これらのことを十分に踏まえていただきたいと御意見をいただいております。

次に「②行政からの積極的な情報発信」では、区民が求めている情報や区民に伝えるべき情報を構造的、体系的に整理するとともに、対象の年齢層や特性なども考慮した戦略性を持った分かりやすい情報発信が重要である。また区民に分かりやすい財政情報を発信していくことは納税者の負託を受けた行政機関の重要な義務であり、適切な情報開示に邁進していただきたいとの御意見をいただいております。

次に10ページを御覧いただきまして、「③ICT活用・DX推進のより一層の取り組み」では、今後の労働生産人口の減少を見据えると、インフラ整備と維持管理ほか、行政活動の様々な場面においてICT活用によるDX化を進めるとともに、その変革に対応した人材確保と育成が不可欠である。既存の取り組みに加え、外部からの人材活用を含めたDX推進のための体制構築を進めた上で、積極的な展開を図っていく必要があるとの御指摘をいただいております。

最後に「(3) 実効性のある区政運営に向けて」です。行政需要に的確かつ迅速に対応するためには、誰に対して具体的に何をなすべきか、取り組むべき優先順位は何か、何を最終的な成果とするかといった基本となる考え方を施策を推進する組織・職員間で共有することが重要であるとしております。その上で最後にありますように、評価を通して、区政運営のさらなる高度化に結びつけることを期待するとまとめていただいております。

以上が「総評」でございます。

13ページ以降については、各施策の評価を展開しており、13ページには評価基準を掲載しております。

例として施策9で御説明します。14ページを御覧いただければと思います。14ページから16ページのシートを活用して、外部評価委員と実施責任者の間で質疑応答を行っております。その結果、外部評価委員による評価が17ページ、18ページとなっております。「1 取組方針の評価」から「2 施策の評価」までを評価項目ごとにまとめてございます。評価については13ページに記載しておりますとおり、S、A、B、Cの4段階としております。また欄外に外部評価モニターの評価をまとめております。18ページの一番下のところです。詳細は79ページの「4. 資料」以降に、施策ごとにそれぞれの内容を記載しておりますので、こちらは後ほど御覧いただければと思います。

また表の中にア、イ、ウなどの表記がございますが、こちらは外部評価委員を指しているものです。委員の方は6名いらっしゃいますので、アからカで表記しております。

最後に79ページ以降につきましては「資料」となっております。80ページに「外部評価モニターについて」で役割、応募状況、出席状況を記載し、また81ページ以降には、それぞれの施策についての外部評価モニターの評価と評価理由を掲載しております。また101ページには外部評価委員会の設置要綱を記載してございます。

説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。非常に要領よく、コンパクトに御説明いただきましてありがとうございました。

ただいまのこれを今日は審議する形になると思いますけども、今、大塚課長から御説明いただいたことについて御質問あるいは御指摘はございますでしょうか。どなたからでも結構でございます。最後に委員の皆さんから一言ずつ、総括をいただこうとは思いますが、まず報告書という形で何か御意見とか、御質問とか、確認してみたいところとか、この際、ありましたら、御発言いただければと思います。

評価総括はすごい量でした。これは、私がと言ってくれましたけど、実はほとんど手を入れていませんで、事務局が作っていただきました。それから、今村委員から非常に大事な指摘をいただきまして、たしか数行ですか、新たに付け加えた部分がございます。

実は種明かしをしますと、最初、数年ぐらい前でしょうか、総評は案を作っていたとき、かなり、これは駄目だと思って相当手を入れました。その手を入れた原型が実は

ずっと引き継いでいただきながら、もう最近は私が手を入れなくても、委員の皆さんの実際の評価と、それから、今までやってきた、この総評の書きぶり、それを事務局で上手にまとめていただいて、こういう今のような案ができていくということでございます。構造化とかというようなことは私が口を酸っぱくして言ったことですし、それからA、B、Cとかということの評価が絶対ではないんだと。評価委員によって、当然、価値観も違いますし、評価のポイントも違うので、違っていいんですと。それをもって、この施策はうまく行ってないんだと。こういうことはなしにしましょうねとか、書いてあるみたいなことは多分、1回目か2回目あたりの総評を作るときに、そのときの事務局の皆さんと議論しながらまとめた。それを踏襲していただきながら、今回、6人の委員の皆さんにまとめていただいた評価結果を、うまくこの中にマージしていただいてまとめていただいたということでございます。

いかがでしょうか。せっかくですので、何か御意見があればと思いますけど。

何かこのまとめについていかがでしょうか。

○委員 大変よくコンパクトに要点をまとめていると思いました。特に異論はありません。

○委員長 ありがとうございます。ジャーナリストであられる、一番、文章をたくさん書いておられる先生からお墨付きをいただくと非常にありがたいと思います。

いかがでございますでしょうか。

○副委員長 私も立場上、よく読ませていただきましたけれども、いつもながら、非常にそつ無くできた文章だなと思っておりますし、つつい私なんか書くと、もっと長くて、まどろっこしくなる危険性が法律家にはありますけれども。悪文の名手だと揶揄される法律家ですから。それに比べ、非常に分かりやすく、区民の皆様方も読んで理解しやすい内容と形態になっていると思います。

本当に御苦勞をかけたなと思って感謝しております。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、こちらの会場でいかがでございますか。

○委員 私も拝見しましたけれども、非常にコンパクトに分かりやすく、まとめていただいて感謝しております。特に異論はありません。

○委員長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○委員 私も、これで非常によく書いておられて、すつんと腑に落ちるような文章でいい

など思いました。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは、この案をもって当委員会の報告書としたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長 どうもありがとうございました。

なお、今後、事務局との確認の中で軽微な修正など、何か修正の必要が生じた場合には、委員長に御一任いただきたいと存じますけど、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長 それでは、軽微な修正などにつきましては事務局と私で修正させていただきたいと思えます。

事務局より何かございますでしょうか。

○事務局 事務局、企画課長の犬塚でございます。委員の皆様、どうもありがとうございました。

本日、報告書をまとめていただきましたことを受けまして、行政評価の今後のスケジュールについてお伝えいたします。

こちらの報告書を踏まえ、区としての最終評価を9月にまとめ、各部はそれに基づき予算要求を行っていきます。来年度予算を含めた行政評価結果については、今年度3月実施予定の委員会において事務局より御報告させていただければと存じます。また報告書につきましては9月に議会への配布とホームページに掲載させていただく予定です。また10月の区議会の所管委員会で報告させていただきます。なお、今年度は長期計画前期期間における外部評価最終年度となるため、来年3月、長期計画後期に向けた御意見をいただければと考えております。詳細につきましては追って御連絡させていただきます。

一点、修正がございます。来年度につきましては、外部評価委員会は今年で3年目ということで、最終年度となりますので、長期計画の展開として取りまとめた資料に関しては、別途で委員の皆様には送付させていただく形を取らせていただきたいと思います。

私からは以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。

ただいまの御説明につきまして御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この令和5年度の外部評価結果報告書案についての審議につきましては、これで終了したいと思います。

最後に、令和3年度から実施してまいりました本委員会ですが、本日をもって終了となりますので、委員の皆様から一言ずつ、お言葉をいただければと思っております。順番としましては、まずオンラインで御参加いただいております竹之内副委員長、それから河野委員、そして中山委員、今村委員、私という順番でコメントさせていただければと思います。

それでは、竹之内副委員長、先陣でお願いいたします。

○副委員長 御指名ですので、一言申し上げたいと思います。

まず外部評価委員の皆様方、それから吉武委員長、そして江東区の職員の皆様方、御協力、大変ありがとうございました。外部評価委員6人という数が多いのか少ないか、私、ちょっと判断しかねるところもありますけれども、実際、自分が委員の1人としていろいろとやっている、結構時間が取られる作業が多かったというのが本音のところでございます。ですから、皆様方も、私同様に、かなりいろいろとお時間を割いていただいたのではないかと感じておりますし、それ以上に区の職員の皆様方は、さらに時間を割いていただいて練っていただいたのだらうなと思っております。その点につきまして改めてまた感謝申し上げます。

それから、今回の3回目のヒアリングの中で特に注目されたのは、外部評価モニターの区民の皆様方がリモートで参加されることが多くなったことです。やっぱり職場等でもリモートを使っていることがありますので、リモートによるプレゼンテーションについて、かなり御意見といたしますか、御批判もいただいたところございましたが、それにすぐ職員のほうで対応していただきまして、2回目、3回目のヒアリングが非常にスムーズに行えたことがありました。今後はリモートが減るのかもしれませんが、やっぱりいろいろな時間の都合とか、そういう関係でリモートがうまく使われていくことは必要になっていくと思いますので、ぜひ今回のことを参考に、そして、よりよく展開していただければと願っております。その点につきましては、今回で終わってしまいますので、次回に続けてくださいというのは、また違う委員会におきましても、そういうことをうまく活用していただければということです。

私としては、とにかく副委員長という肩書で微力ながらお手伝いできたことを光栄に思っておりますし、皆様方に感謝をしております。本当にありがとうございました。

○委員長 副委員長、どうもありがとうございました。本当に今の御指摘をまた次に生かしていただければと思います。

それでは、よろしくをお願いいたします。

○委員 3年間、大変お世話になりました。吉武委員長、竹之内副委員長、それから職員の皆様、担当者の方々、幹部の皆様、それから区民モニターで参加していただいた区民の皆様、大変勉強になりました。お世話になりました。

3年間のプロセスを通じて本当に感じたのは、こういう行政の第一線の難しさと言うのでしょうか。そこにありとあらゆる問題が集中をしていて、観念的なことではとても済まない。一つ一つの目の前に起きていることに本当に取り組まなければいけない。それが区政、市政の問題だということが本当に手に取るように分かりました。

特に今回、3回目におきましては、青少年をめぐる問題であるとか、コミュニティーをめぐる問題、町会自治会を含めた、これは防災減災のときにどうするかも含めた問題になってくるわけですが、本当にそこをどう考えていいか分からない。状況がどんどん変わる中で新しい課題が出てきている、難しい課題が出てきていることが噴出して、いろいろディスカッションさせていただきましたけれども、多少厳しいポイントがついているのも、その行政の職員の方たちが手を抜いていたとか、全くそういうことではなく、いかに難しい問題が生起していることに区政が直面していることの証左だったと思います。ですが、大変だとは思いますが、これは国であろうと、都道府県であろうとできないことで、一つの解決法というか、もっとこうしたらいいのではないかということが打ち出せるのは区政、市政だと思いますので、本当にその辺はいろいろ考えられていることいろいろなディスカッションを通じて分かりましたので、本当に今後の江東区政のありように着目し、期待したいと思っております。どうぞ頑張ってください。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

○委員 これまで3年間、外部評価委員を務めさせていただきました。本当にありがとうございました。職員の皆さん、委員長、大変だったと思います。感謝申し上げます。あと委員の皆様もお疲れさまでした。

評価を終えて感じたことは、長期計画10年で前期5年で見直しを行うことになっているわけですが、5年というタームでの変化の大きさについて非常に感じるものがありました。特にこの5年は、新型コロナウイルスの流行もあって、世の中が大きく変化することとなりました。そのため、5年の中で、その変化に対応した取組に変更していく必要が生じたと思っています。例えば長期計画策定時には、年少人口が10年後まで増え続けるという前提で計画が策定されていたわけですが、実際には年少人口は既に減少に転じていま

す。特にゼロから5歳児の人口は平成30年度をピークに減り続けており、令和5年はピーク時に比べ10%以上減っています。ですので、計画策定時は待機児童ゼロを目標に、どんどん保育園を造る。そういう方向性でよかったわけですが、今は地域によっては方向転換していかなければいけないような状況になってきました。これについては令和5年3月に、こども子育て支援事業計画を改訂して事業の見直しを行っているわけですが、このことに限らず、区を取り巻く環境が大きく変わってきたと思っています。ですので、5年の中で起こる様々な変化にスピード感を持って、各所管課が対応していくことが必要になってくるのではないかと思います。

変化の激しい時代に迅速に適切に対応していくのは本当に大変なことだとは重々承知しているのですが、各取組の中でPDCAサイクルを回して、試行錯誤しながら取組を推進していただきたいと思います。

3年間、委員を務めましたが、いろいろな施策を評価させていただき、大変勉強になりました。私は区民でもあるので、職員の皆様に感謝するとともに、今後の区政に期待しております。ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

お願いいたします。

○委員 3年目の外部評価委員会の業務を終えることができましてホッとしております。委員長をはじめ、委員の皆様、事務局を務めていただいた政策経営部の皆様、また江東区の職員の皆様に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後のために3点ほど申し述べさせていただきたいと思います。

1つ目なのですが、今回、評価の単位としていただいた基本施策同士の関連性をもう少し意識して評価する仕組みを少しつくったほうがいいのかなと思いました。特に関係が強い同一の、いわゆる施策の大綱に属する施策ですね。これはなるべく同一の評価者が同一期間で評価するほうが効果的だったのではないかなと思っています。また、その意味でも、これはちょっと意見が分かれるところかと思うのですが、3年という評価期間はやや長く感じました。次回以降は何らかの改善の検討をお願いできればと思います。

2点目なのですが、計画行政の長所は、やはり総合性だと私は思っています。事業の一つ一つが、あるいは各地区のまちづくりの方針、地区計画は、それとして正しいようでも、それを足し上げた総和が必ずしも正しい解となるかという、そうではない場合もあると思います。例えば区内の各拠点の再開発方針が地元の関係者の皆様を中心に、これは良か

れと思って決定されたとしても、必要な公共機能の導入方針が組み入れられていなければ、江東区全体として必要なニーズを充足できないケースが生じることも考えられます。したがって、先ほど申し上げました計画行政の基本である総合性の視点に立って、政策経営部の皆さん、あるいは都市計画マスタープランをつくった都市整備部の皆さんが必要となる事業、あるいは公益的な機能を取り残さないように目標設定と進捗管理を行うことに御留意いただくとよろしいのではないかと思います。

3点目なのですが、計画の立案には恐らく技術職の方々の視点は取り入れられていると思います。ただ、これからは評価においても、行政の専門性ですとか、先端的な技術の知識、あるいはコスト管理、こういった力が不可欠になってくると思います。そのため、評価側にも技術面での見識を持つ人に加わっていただくと、さらに良い評価につながるのではないかと思います。

私からは以上でございます。本当に長い間、ありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。

最後ですけれども、今日は河上委員が来られていませんので、4人の先生方からコメントがありましたけど、本当にそれぞれ、そのとおりだなと思いました。

この評価委員会をやっていて一番残念なのは、実は全員がそろう場合は最初と最後だけで、いつも3人ずつに分かれてしまいます。それでも私にとりましては、特に今回、河野委員、河上委員が非常にしっかり読み込んでいただいて、しかも、それぞれの御経験や知識、御見識に基づいて、かなり鋭い御質問をされておられたのが非常に勉強になりました。それゆえ、B班の先生方のやり取りも聞かせていただければ、もっと面白かったなと思っていて、何年もやらせていただいて、特に今回のチームはそれぞれバックグラウンドがあり、非常に的確な御指摘をされておられて、まず私自身が、すごく委員会を通じて委員の皆様から勉強をさせていただいたことがまず感謝でございます。

それから、いつもながら、職員、政策経営部の皆さんは本当に夜遅くまで作業していただいているのだらうと思いますけれども、大変な事務量だと思います。まずこのことに心から感謝申し上げたいと思いますし、各部門の主管部の部課長さんたちに対して厳しいことも申し上げましたが、やはり区民を向いて仕事をしていることをひしひしと感じます。国とか都とか、そういう仕事をやっていると、何と言うのでしょうか、誰のために仕事しているのかがよく分からなくなることがあります。やはり都民を見ているのでしょうか、あるいは国民を見て仕事しているのでしょうか。どうもそうではないのではないかと思います。

ことが多々ありますけども、江東区に関する限りは、やはり区民目線を職員の皆さんがしっかり持っておられるということですね。そこで自分たちがこう進めたいところと区民の皆さんの考え方なり要望なりとの間で苦しみながら、政策を立案し、遂行している様子が非常によく分かります。そういう意味で、やっぱり現場にこそ真実があるなという気がしまして、私も幾つか、こういう仕事をさせていただきましたが、江東区の仕事は本当に、私自身、勉強になりますし、職員の皆さんたちが区民目線で仕事をされていることに対して非常に深く敬意を表する次第です。

今日まとめていただきました報告書は、これを改めて見ますと、本当に宝ものだろうと思います。外部評価モニターの皆さんもそうですし、委員の皆さんたちのコメント、それから同じ施策でもやはり委員によって評価が違っていることも含めて、それらを全部、最終的にまとめていただいた事務局の、実際には事務局にまとめていただいた総評、こういうのを全部まとめますと、これは大変な区の財産だと思いますので、これをぜひ生かしていただきたいなと思います。

最後に、今村委員がおっしゃっていただいたように、総合性というのですか、どうしてもこれをやっていると、全部、施策をやっていきますね。施策をまとめてやってきて、しかも、平均がいいなとかと言われるものですから、無理くり数字を作っている部分もあるんですね。それから、実際にやってみると、何のために、こんな数字、報告書みたいなものを作らされて、評価しなきゃいけないのだと。恐らく皆さん、真摯にやっていらっしゃるのだけでも、どこかにそれはまだあるんですね。大学の評価とか、いろいろな評価をやっている、何でこんなことをやらされるのだと。私自身も評価されているときは、そういうふうに思っていました。ですから、評価はやらなければいけないことだし、きちんと可視化して、区民とかに見せるようにしていかなきゃいけないんですけども、やはり、ともすると評価のための評価、計画のための計画になってしまうし、それを無理くりKPIを作って、そして施策を輪切りに一つずつ評価をしていくと、当然、総合性とか、戦略性とかは失われてくるわけです。このあたりをどうするかは非常に難しいところだと思います。みんな、本当によくやっているんですけど、やっぱり計画をつくって、評価をする。それで区政を回していくとは一体どういうことなのか。KPIには一体どういう意味があるのかを、常に正解があるわけではないのですが、原点に立ち返って、またこれからの計画、あるいは評価の在り方、施策展開の在り方に生かしていただきたいと思います。

まず委員の皆様方に心から感謝を申し上げると同時に、本当に事務局の皆さんたちはす

ばらしい私たちの仕事仲間だと誇りに思っております。そのことを申し上げて、私からのコメントとしたいと思います。

それでは、せっかく副区長がお二人、御出席いただいておりますので、両副区長から御意見、御感想などをいただければと思います。座ったままで結構でございますので、よろしく願いいたします。

○副区長 改めまして、副区長の大塚でございます。一言、御挨拶をさせていただきます。

吉武委員長をはじめ、外部評価委員の皆様には、この3年間、行政評価について御尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。

現在の長期計画については、策定以降から、いわゆるコロナ感染症の影響によって、区においても、事業の実施、あるいはイベント、会議の開催に大きな影響を及ぼしてきたところでございます。やっとなんと言ったらあれですけども、今年度より、区においても、事務事業、あるいはイベント、会議体、そういうものについてもコロナ前の状況に戻ってきておりますけれども、さらにコロナ禍の教訓を生かした形で、事務事業の見直しだとか、会議の持ち方だとか、そういうものは今後、工夫をしていかなければいけないのかなど。コロナ前に戻るのではなくて、それよりも進化させる形で取り組んでいかなければいけないのかなど思っております。

本年度行政評価につきましては、今、いろいろな先生方、委員の皆さんから、大変お褒めの言葉というか、職員に対して、また事務局に対して、お褒めの言葉をいただいて本当にありがとうございます。職員としても非常に励みになると思います。私が一番うれしかった言葉が、みんなが区民の目線に立って仕事していることが非常にうれしいことなのかなど。この気持ちはやっぱり忘れてはいけないのかなど思いました。

そういう中で、また現在の長期計画については、もう前期計画、ほぼ来年度で終了になります。7年度からは、また新たに後期計画を策定いたしますけれども、後期計画策定に当たっても、今回いただいて行政評価については、いろいろ方向性なりを示していただいたのかなど思っております。江東区といたしましても、今回の行政評価を通して、基本的には区民ニーズに沿った形で、区民福祉の向上、また区民の皆さんからの期待に応えられるような形で行政運営をしていくことが重大な責務なのだなと思っております。

一番初めに冒頭に吉武委員長からございましたけども、江東区に対して、引き続き、温かい御支援と御意見、また応援をいただければと思いますので、今後もよろしく願いいたします。

私からは、簡単ですが、以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。

○副区長 改めまして、副区長の武越と申します。

3年間にわたり、委員の皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

令和3年度から、コロナが、最初は2年度ぐらいになるので、その後からで、本当にこの外部評価のやり方は、前の長計のときには、ずらっと人がいっぱいいて、やる感じだったのが、もうリモートがすっかり定着したやり方になっているということで、大変御苦労もあったかと思うのですけれども、この大変な中、いろいろな御意見をいただき、熱心に御議論をいただいたことを本当に感謝申し上げます。

今回、まとめのところでも的確だなと思ったのが、ICTの利活用ですとか、DXの推進というところで、これは江東区でかねてから弱いところと言いますか、なかなか推進し切れないところも的確に指摘していただいたということで、これをもって、先ほど宝ものとおっしゃっていましたが、これをしっかりと糧にして推進できればと考えております。

あとは、先ほど大塚副区長が申し上げましたが、職員に対して、かなり皆さん、お褒めの言葉をいただいたのは本当にうれしく思っておりますので、それに甘えずに一丸となって頑張っていきたいと思っております。

最後になりますけれども、吉武委員長におかれましては、前の長計のとき、僕は課長時代ですね。ここに座っていたんですね。それから10年ぐらいたちます。大変お世話になりました。引き続き、厳しくも温かい御指導をお願いできればと思います。

本日はどうもありがとうございました。

○吉武委員長 どうも、両副区長、ありがとうございました。

今、武越副区長がおっしゃったように、財務課長でしたね。それでいろいろ財務の予算のこととかの説明を伺って、かなり厳しいことも、当時、言ったことがあったと思いますけど、本当にすばらしい、皆さん、キャリアアップされることは本当にうれしいことです。

本日予定されておりました議題はこれで終了いたします。

本日は皆様の御協力で報告書をまとめることができました。誠にありがとうございます。また委員の皆様には、当委員会の運営に御協力いただきましたことを重ねて御礼申し上げます。

それでは以上をもちまして、第5回外部評価委員会を終了したいと思います。大変あり

ありがとうございました。

○事務局 ありがとうございました。

午後7時30分 閉会